

市長定例記者会見資料

平成28年4月1日

部 課 名	教育部生涯学習課	電 話	22-8677
課 長	山本 英樹	担 当 者	川上 浩史
1. 件 名	講演会&写真展「漢陽寺庭園と重森三玲」		
2. 目 的	漢陽寺庭園の価値と魅力を再発見する		
3. 日 時	<p>■斉藤忠一講演会「重森三玲が庭を作るまで」 4月29日（金祝） 14時～15時30分</p> <p>■中田勝康庭園写真展 4月29日（金祝）～5月3日（火祝） 10時～17時（最終日15時）</p> <p>■中田勝康ギャラリートーク 4月29日（金祝） 13時～13時45分 5月 2日（月） 13時～17時（フリートーク有） 5月 3日（火祝） 13時～13時45分</p> <p>■お茶席 4月29日（金祝） 11時～、15時30分～</p>		
4. 場 所	<p>周南市文化会館 3階展示室及び和室 周南市大字徳山5854-41 0834-22-8787</p>		
5. 主 催 者	重森三玲庭園の会（会長：渡辺明彦）		
【共催】	<p>周南市、周南市教育委員会、（公財）周南市文化振興財団 （一財）周南観光コンベンション協会</p>		
6. 内 容	<p>日本庭園の魅力と漢陽寺庭園の価値について理解を深める 講演会及び写真展</p> <p>鹿野・漢陽寺の庭園は、昭和の雪舟と称される庭園家・重森三玲の手によるものであり、重森庭園は、近年国の文化財指定を受けるなど評価が高まっている。</p>		
7. そ の 他	別添チラシのとおり		

「講演会&写真展・ギャラリートーク」

「漢陽寺庭園と重森三玲」

重森三玲

昭和を代表する作庭家

日本庭園の伝統を徹底的に研究し、そこに独自の哲学をくわえることで、

『永遠のモダン』を生み出した。

寺社に多くの枯山水を作り出し、自然主義的な庭園を批判して象徴的な庭園を打ち立てた。

講演会

講師 齋藤忠一氏

『重森三玲が庭を作るまで』

四月二十九日(金祝)

一四時〇〇分～一五時三〇分

ギャラリートーク

講師 中田勝康氏

『日本庭園が芸術であるためには』

四月二十九日(金祝)

一三時〇〇分～一三時四五分

五月 二日(月)

一三時〇〇分～一七時〇〇分※フリートーク

五月 三日(火祝)

一三時〇〇分～一四時〇〇分



漢陽寺:瀟湘八景の庭
しょうそうはっけい



漢陽寺:曲水の庭
きよくすい

日時:4月29日(金祝)～5月3日(火祝)
10:00～17:00

(※5月3日のみ15:00まで)

会場:周南市文化会館 3F展示室

入場料:無料(講演会、写真展・ギャラリートークいずれも)

お茶席:4月29日(金祝) 11:00～13:00
15:30～17:00

お問合せ先 Tel080-4269-4662

主催:重森三玲庭園の会

共催:周南市、周南市教育委員会、(公財)周南市文化振興財団、
(一財)周南観光コンベンション協会

後援:京都林泉協会、潮陽会、周南文化協会、山口県、
山口県教育委員会、光市教育委員会

協力:明るく元気な鹿野をつくる会



重森三玲庭園の会



齋藤 忠一 プロフィール

さいとう ただかず

昭和14年生まれ。東京藝術大学卒業。作庭家であり庭園研究家。1963年に重森三玲に師事して1975年に独立。宗箇流家元露地（広島市）など全国各地で作庭。山口県内では常栄寺雪舟庭復元の監修を手掛けるなど日本庭園を主に修理、復元を行っている。また、日本庭園に関する講演活動も精力的に行っている。著書『日本庭園鑑賞事典』（東京堂書店）、監修『日本庭園』の見方（小学館）他



中田 勝康 プロフィール

なかた かつやす

長野県松本市出身。昭和44年に作庭家、重森三玲・齋藤忠一両氏に出会い日本庭園の面白さを知り、写真を撮り始める。数々の鑑賞の中で、庭園には時代思想（宗教）が反映しているという解釈にたどり着く。また、日本庭園は世界基準で評価すると「芸術といえるのか」という問題提起をし、「芸術である庭園」とはどのようなものかを模索中。現在は荒廃した庭園の保護活動を行い、特に重森三玲の庭の「登録記念物（名勝地）」化に傾注。各地で講演会、写真展を行っている。著書『重森三玲 庭園の全貌』『日本庭園に行く』

会場：周南市文化会館案内図



重森三玲の庭園 漢陽寺案内図



重森三玲庭園の会